1 リスクアセスメントの手法で危険の芽を摘み取ろう

職場では多種多様な作業が行われ、また、新たな作業方法の採用、変更及び作業の機械化などが進んでおり、それらの実態や特性にあった安全衛生対策を行っていく必要性が高まっています。職場にある様々な危険の芽(リスク)を見つけ出し、災害に至る前に、先手を打って対策を施し、リスクの除去・低減措置を行い、更なる労働災害の減少を図るための手法の一つに「リスクアセスメント」があります。

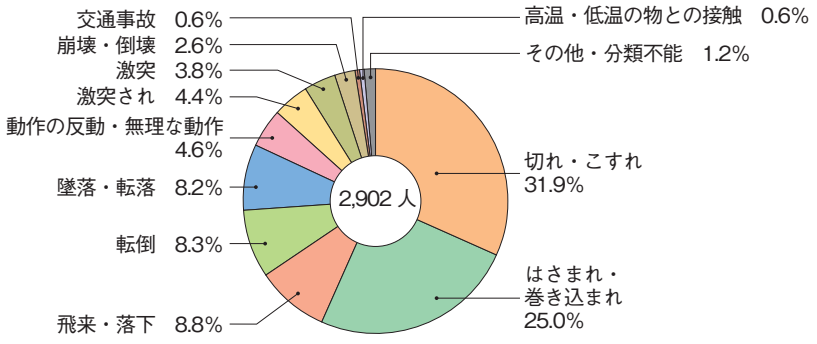
木材・木製品製造業や家具・装備品製造業における労働災害の度数率は、いずれも製造業の平均に比べかなり高く、休業 4 日以上の死傷災害について見ると、両業種併せて年間 3000 件程度発生しております。そのうち災害の種類である「事故の型別」で見ると、木材・木製品製造業では「はさまれ・まきこまれ」と「切れ・こすれ」で 50%を超えていますし、家具・装備品製造業では「切れ・こすれ」だけで 50%近くを占めています。

このように、木材・木製品製造業や家具・装備品製造業では、多くの災害が発生していますし、その原因は、作業員の不注意や作業の慣れにより、災害につながりやすいといえますので、先ずは、危ないと思われる作業を対象に、できるところからリスクアセスメントを始めてみましょう。

本マニュアルは、木材・木製品製造業や家具・装備品製造業に限らず、様々な業種で行われる木材加工作業に伴う災害を防止するためのリスクアセスメントの実施のすすめ方をまとめたものです。このマニュアルを活用して災害防止に努めましょう。

木材・木製品製造業及び家具・装備品製造業における事故の型別労働災害発状況（休業４日以上の死傷災害）

事故型 / 年	墜落転落	転倒	激突	飛来落下	崩壊倒壊	激突され	はさまれ巻き込まれ	切れこすれ	高温低温の物との接触	動作の反動無理な動作	交通事故	その他分類不能	合計
平成14年	266	256	118	326	65	183	877	1,247	30	141	26	40	3,575
平成15年	268	285	105	324	79	163	882	1,260	22	172	22	28	3,610
平成16年	230	250	125	301	86	130	818	1,140	13	145	15	35	3,288
平成17年	247	255	110	280	68	138	815	1,029	27	138	10	33	3,150
平成18年	238	241	111	255	75	128	726	926	16	134	17	35	2,902
平成18年割合(%)	8.2	8.3	3.8	8.8	2.6	4.4	25.0	31.9	0.6	4.6	0.6	1.2	100.0

資料出所：労働者死傷病報告

木材・木製品製造業及び家具・装備品製造業における事故の型別労働災害発生状況（平成 18 年）